

(7) 近畿



近畿地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は極めて厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

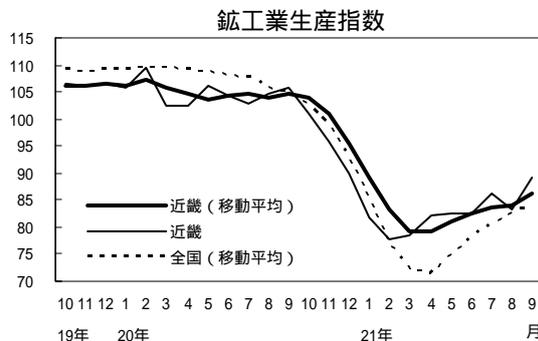
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 21 年 8 月)	今回 (平成 21 年 11 月)	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
雇用情勢	急速に悪化	極めて厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やか	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は、自動車向けの軸受け等が好調だったものの、土木建設機械を中心に減少している。化学は、有機薬品やプラスチックを中心に増加している。食料品・たばこは、清涼飲料水の生産水準が低下したことから、減少している。電気機械は、セパレート型エアコンやリチウムイオン蓄電池、太陽電池モジュールを中心に増加している。鉄鋼は、自動車や家電向けを中心に増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

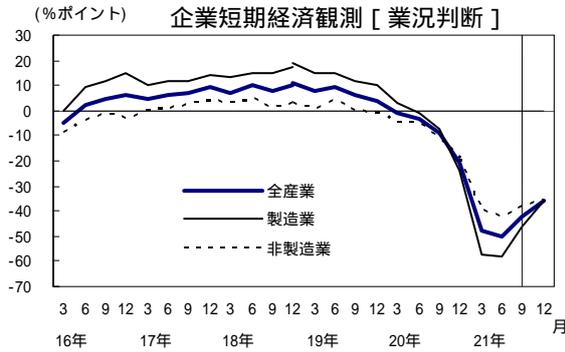
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	17.0	5.1	1.4	0.9	9.2
化学	14.5	8.0	2.9	2.7	2.4
食料品・たばこ	9.1	0.4	1.4	0.5	1.7
電気機械	8.5	12.3	7.0	3.4	14.9
鉄鋼	7.5	3.1	21.7	19.4	5.6
鉱工業	100.0	3.6	4.4	4.4	2.4

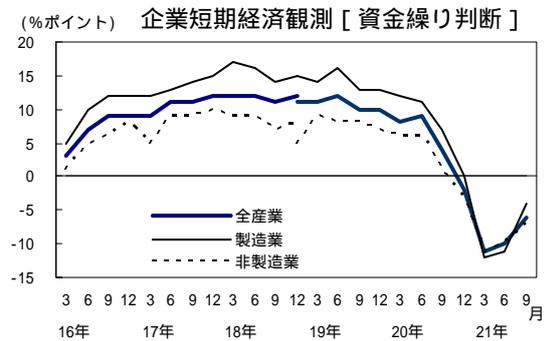
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7~9月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

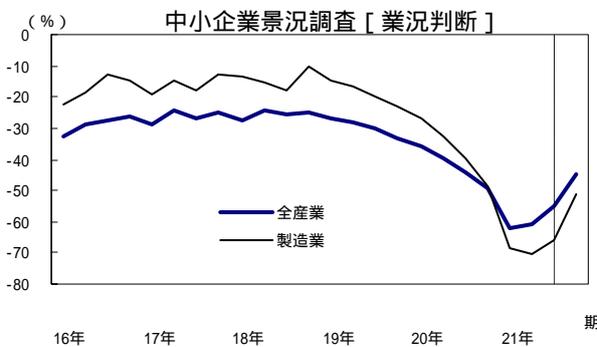
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年12月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

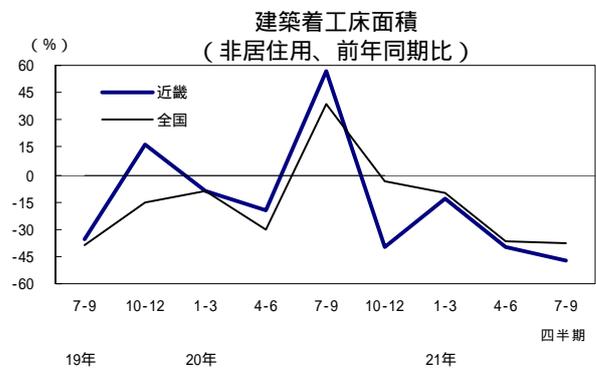
「引き続きAV関連商品や空気清浄機の荷動きが堅調である(電気機械器具製造業)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	1.6	12.5(0.3)
製造業	6.5	25.9(2.0)
非製造業	3.5	0.3(2.0)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

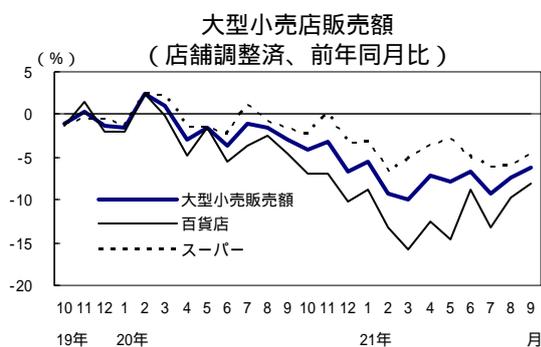
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、夏のクリアランスセール前倒しの反動で衣料品が低調だったほか、夏のボーナス減額などを背景に高額品や定価販売品が振るわなかった。8月は、主力の衣料品が低調ななか、中元品を安値でばら売りする「解体セール」が好調だったことに加え、一部店舗では閉店セールで売上が増加したことから、前年比の減少幅が縮小した。9月は、秋物衣料が不振であったが、一部店舗の改装効果や大型連休による入店客増がみられ、8月に引き続き前年比の減少幅が縮小した。なお、大阪市内の複数の店舗では、改装・建て替え工事により売場面積が減少している。近畿百貨店協会によると、10月の近畿地区の売上高は、前年同月比で8.1%減となっている。

スーパーは、マスクなどのインフルエンザ関連商品に動きがみられたものの、天候不順の影響で客数が減少し、衣料品、身の回り品が低調だったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「エコカー減税や新車購入補助金の影響で、客の購入意欲は依然として高い。車検を控えた客も、補助を受けられるうちに検討したいと来店している(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

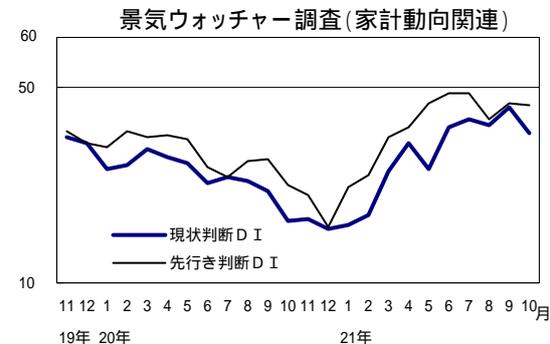
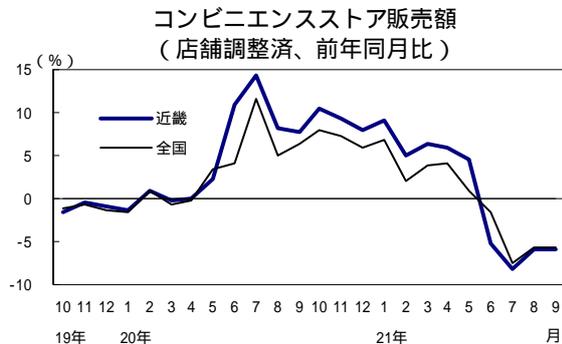


	(前年同期比、%)			
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	4.8	8.2	7.2	7.7
百貨店	8.2	12.6	12.0	10.7
スーパー	2.0	4.9	3.8	5.7
乗用車	14.0	23.4	16.5	1.5
景気ウォッチャー	22.3	26.1	37.8	43.8

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

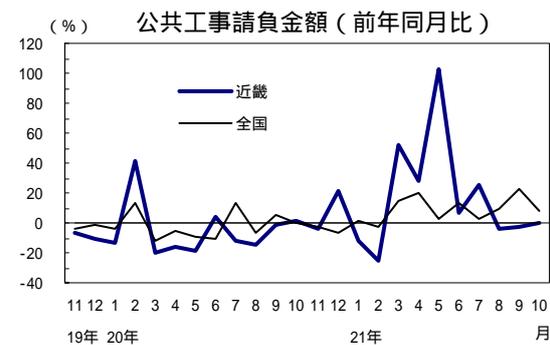
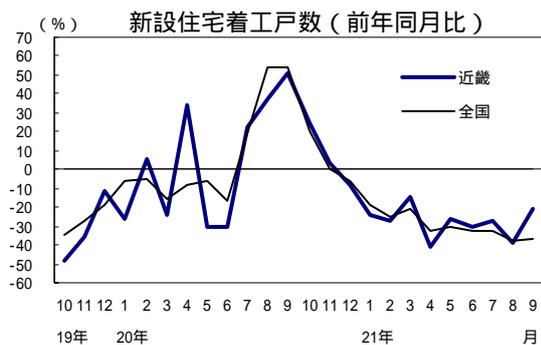
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

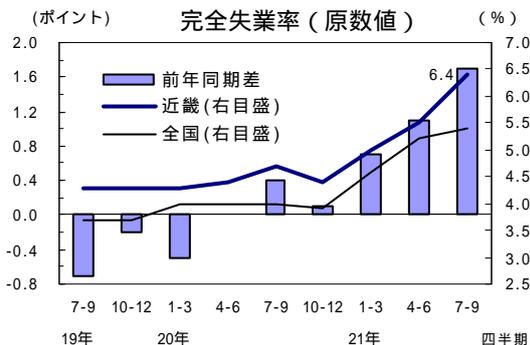
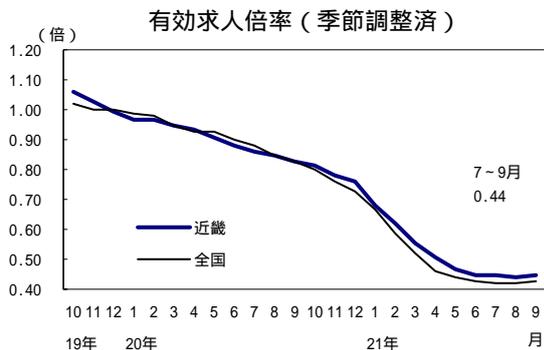
持家、貸家、分譲が前年を下回り、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は極めて厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。

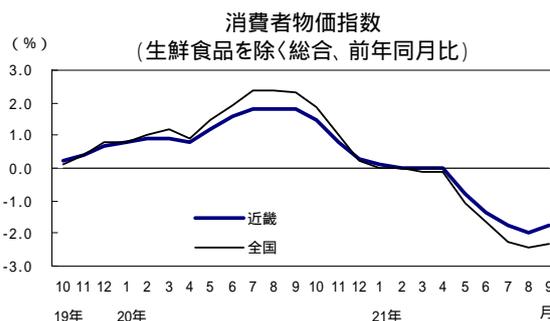


景気ウォッチャー調査 (10月) [雇用関連 (現状)]
 「自動車や省エネ家電関連の企業では求人意欲が高まっている一方、これまで不況の影響をあまり受けていなかった企業で、業況が悪化し始めている (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は増加しているものの、負債総額は減少している。
 (3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月	21年10月
倒産件数	1,008	1,081	1,104	1,060	344
(前年比)	5.9	6.6	18.7	8.8	2.3
負債総額	3,216	3,968	2,356	1,647	569
(前年比)	28.6	59.4	21.6	33.1	45.0



景気ウォッチャー調査 [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状> (9月)

- ・今月は大型連休で来客数が増加し、売上は好調に推移している。特に、エコポイント制度の効果により、電化製品は好調となっている。ただし、衣料品の販売価格は依然として大きく低下している (百貨店)

<先行き> (10月)

- ・太陽光発電設備の購買意欲が高まっているほか、エコポイント制度の効果も続く (家電量販店)

